

報道関係者各位

2022年9月1日 配信 No.2022-14
立命館アジア太平洋大学 (APU)

国内最大級！大分県産材を使ったサステイナブルな大学校舎
新教学棟（2023年春竣工予定）木造建築部分内覧会のご案内

日時：9月20日（火）12：40～15：00 場所：APUキャンパス

≪希望者のみ≫九州電力社有FSC認証林見学会 9：00～12：00

立命館アジア太平洋大学（大分県別府市、学長：出口治明、APU）では、9月20日（火）12:40から、2023年春竣工予定の新教学棟の内覧会を行います。鉄骨造と木造からなる地上3階建ての新教学棟は、大分県との協定に基づき中央の木造建築部分に構造材から内装にいたるまでほぼ大分県産材を使用し（一部はFSC認証※を取得）、大学の木造建築としては国内最大級となります。本木材の一部は、昨年11月に締結した九州電力大分支店と弊学との連携協定に基づき、FSC認証を受けた九州電力社有林から木材を調達しています。大分県や九州電力など地域社会と連携し、カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを推進して参ります。

当日は、木造の躯体が立ち上がった状態の建築現場を、建設を設計施工する竹中工務店の担当者のご案内します。躯体はこのタイミングでしかご見学いただけませんので、是非ご参加ください。ご希望の方は、同日午前中に建物に使用する木材の管理を行う九州林産（大分県由布市）の九州電力社有FSC認証林で、植樹や伐採などサステイナブルな森の循環を維持するプロセスを特別に公開します。

APUは、2023年4月を「第2の開学」と位置づけ、既存2学部の教学改革や開学以来初の新学部「サステイナビリティ観光学部」の開設を進めています。新教学棟は、APUが目指す世界基準のグローバル・ラーニング・コミュニティの中核となる場所です。グループワーク等学習への利用だけでなく、学生、教員、ステークホルダー、地域の方など多様なコミュニティとの交流や連携を促進します。

※ FSC認証とは：持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度。

【 概 要 】**■新たな教学棟木造建築部分内覧会**

日 時：2022年9月20日（火）12：40～15：00（受付 12：00～）

集合場所：立命館アジア太平洋大学 教室棟（F棟）入口

内 容：①建物についてのご紹介 ②建築現場内覧（グループに分かれて実施）
③学生の餅撒き体験、のこぎり・鉋掛け作業体験参 加 者：林野庁、大分県庁など自治体関係者、株式会社竹中工務店、九州電力株式会社、関係企業
出口治明（学長）、須藤智徳（アジア太平洋学部教授）、弊学学生及び教職員

申込締切：9月14日（水）16：00

■FSC認証林見学会 ※希望者のみ

日 時：2022年9月20日（火）9：00～12：00（集合8：50、現地見学 10：00～11：00）

集合場所：立命館アジア太平洋大学 ミレニアムホール前

現 地：九州電力社有林（由布市）

内 容：①木材伐採機、人力チェーンソー等作業実演 ②森の循環（植林～伐採）の説明
定 員：22～23名（先着順）

申込締切：9月9日（金）16：00

注意事項：キャンパスへのご来場はお車でも可能ですが、九州電力株式会社様の社有林へは弊学で準備するバスにご乗車いただき、見学場へ行くこととなります。

【 新教学棟建設概要 】

建築面積：2,802.02㎡ 延床面積：6,495.95㎡（内木造対象面積：1,400㎡）
構造：鉄構造（S造）＋木造 階数：地上3階、地下なし
木材使用量：450㎡（製材＋集成材）内430㎡大分県産産材、20㎡その他の国産材
木造建築効果：CO₂1,269トンの削減効果（独自試算）
主な機能：中教室、グループワーク教室、馬蹄型教室、小教室、学生滞在スペース、地域連携スペースなど
工期：2022年2月15日～2023年2月15日

<特徴>

- 「グローバル・ラーニング・コミュニティ」に相応しい空間への進化
 - ・ 多様なスチューデント・commons（教室以外の共通空間）を豊富に設置
 - ・ グローバルで多様なコミュニティ、地域など豊富なステークホルダーとの連携を活性化
 - ・ APUの「学び方」（活発なグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション）を支える教室への進化
- 地球規模の社会課題「持続可能な社会」実現のシンボル
 - ・ カーボンゼロ社会を目指して木造建築に挑戦
 - ・ 「サステナビリティ観光学部」とも連動



外観のイメージ



木造建築部分の「大階段commons」イメージ



木造建築部分側面図